津波の教訓 生死左右

❷3月11日、高さ5㍍以上の第2波が押し寄せた後、引き波で海底がむき出しになった両石湾。左の写真と比べると、潮が引いた異常な様子が分かる＝瀬戸さん撮影　❸避難した高台で、津波が押し寄せた状況を語る瀬戸さん＝いずれも岩手県釜石市両石町で

釜石の町内会長「絶対戻るな」第2波回避

「災害時に命を守る力は、自力7割・地域の力2割・行政1割」。東日本大震災を受け、防災関係者の間でそんな指摘が出ている。行政機能がまひする大震災では、個人個人と地域がどれだけ「備える力」を持っているかが生死を左右する。岩手県釜石市両石町は町内会長を中心に活動で、被害を最小限に食い止めようとした。（柚木まり）

■三角の波

三月十一日午後二時四十六分、町内会長の瀬戸元さん㈰は両石湾の桟橋で腹ばいになり、潮位計を設置している。二日前に震度4の地震があり、「そろそろ大地震が来る」と感じていた。

強い揺れが起きたのはその時。海面を見るとと、とがった波がいくつもできていた。「三角の波」だ。声を掛けた人全員に「絶対に戻るな！」と叫び掛けた。

自分だけ避難するか、周りにも呼びかけるか。そのジレンマを解消しようと、一津波が来る。逃げるぞ！」と呼びかけながら先頭になって避難する「率先避難者」の取り組みが進んでいる。

三重県尾鷲市は、避難行動の研究で知られる群馬大の片田敏孝教授の発案で、率先避難者の指定を進めている。自主防災会幹部を中心に五人が指定され、十一月には「大津波が来るぞ！」とハンドマイクで呼び掛けて一斉に高台に逃げる訓練をした。

市防災危機管理室の川口明則室長㈭は「避難は住民の意識に頼る部分が大きい。人望のある人を率先避難者に決め、住民の背中を押すことは効果的」と説明。ただ、沿岸部は過疎化が進み、高齢者に頼んでも「自分の避難で精いっぱい」と断られる例が多い。人材の確保がかぎだ。

三重県も東日本大震災後、各市町に率先避難者の選定を急ぐよう助言。県の防災コーディネーター育成講座の修了生を担い手に期待する。

愛知県は、町内会や学区単位の自主防災組織や福祉施設などとの連携を進め、障害者の誘導や九千七百団体。町内会長など地域の役員になると避難所の運営など、実践的な訓練を進める。自動的に自主防災組織にも入る自治体が多く、地域のカバー率は98・3％で、昨年まで三年連続で全国一位だ。防災リーダーは四万三千人。東日本大震災後、連絡体制や入り込むのは難しい。共人の危険確認などを見直している。課題は参加者の高齢化。県防災危機管理課の職員は「なかなか新しい人が入らない。震災後に関心を持つ人も増えたので、今後期待した」と話す。

名古屋市は町内会単位で四千六百の自主防災組織の指導者養成に力を入れる。

県防災課によると、研修を受けた町内会の役員が交代すると、訓練が引き継がれず定着していない地域もある。担当者は「個人の意識に左右されることが多いため、ノウハウをいかに地域で引き継いでもらうかが難しい」と打ち明ける。

率先避難者 養成進む

東海3県 課題は人材確保

■悲劇の歴史

「地元の津波は地元の人が語り継ぐべきだ」が瀬戸さんの信条。これまで四十年間、史料を調べ、古老の聞き取りを続け、小中学校で被害の歴史を伝えてきた。

両石湾は湾口が狭く、津波が押し寄せるのないまま二㍍以上の第二波が押し寄せる地形だ。

一八九六（明治二十九）年六月の明治三陸地震では、震度2～3の揺れで津波は二〇㍍超に。旧暦の端午の節句の夜で酒を飲んだ人も多く、町民の86％にあたる八百二十四人が死亡した。一九三三（昭和八）年も震度5の地震で二・五㍍の津波が襲ったといわれる。

町の悲劇を深く知っていたから、今回も大津波が来ると予測できた。釜石市では震度6など、物を取りに行こうとも思わなかったね」で第一波が押し寄せ、両石町は、町内六百八十五人のうち四十四人が犠牲となった。

■鬼の心

第一波が過ぎ、海が到達したことがない造成地の町民。「津波はいつでも来る」と危機意識を持っていた湾もいた。だが、引き波に近い町民の方が被害は少なかった。

明治、昭和、平成といずれも津波は地震の約三十分後に町を襲ってきた。瀬戸さんの声を聞き、高台にとどまった女性は助かった。脳をすり抜けて行った男性はその後、第二波を上回る分、残りの十五分はとにかく自分の逃げる分。最後は、人を蹴落としても自分が助かる鬼の心を持たねばならねえ」

「最初の十五分は町内会長としての活動で、残りの十五分はとにかく自分の逃げる分。最後は、人を蹴落としても自分が助かる鬼の心を持たねばならねえ」と訴える。

次回は1月9日掲載。企業の震災対応について考えます。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています

2011年12月26日 中日新聞 朝刊 21頁

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています